

川越市教育委員会第6回臨時会会議録

- 1 会議の場所 川越市教育委員会 教育委員会室
- 2 開 会 平成30年8月6日 午前9時30分
- 3 閉 会 平成30年8月6日 午後0時15分
- 4 教育長並びに出席した委員 新保正俊、梶川牧子、長谷川 均、長井良憲、黒田弘美
- 5 欠席委員 なし
- 6 教育長の職務を行った者 教育長新保正俊
- 7 説明のため出席した者 教育総務部長中沢雅生、学校教育部長福島正美、学校教育部副部長兼教育指導課長中野浩義、学校教育部参事兼学校管理課長内野博紀、学校教育部参事兼教育センター所長横山敦子、教育総務課長若林昭彦、中学校用教科用図書選定委員会委員（野田中学校校長佐野 勝、霞ヶ関東中学校校長大野光男、川越西中学校校長齊藤正巳、名細中学校校長市村 剛、山田中学校校長梶田英司）小学校用教科用図書選定委員会委員（中央小学校校長小俣仁司、高階西小学校校長鈴木友子、大東西小学校校長吉田和実、霞ヶ関北小学校校長関根康弘、山田小学校校長菅田浩子）

8 前回会議録の承認

平成30年度第1回定例会会議録、第2回定例会会議録、第3回定例会会議録、第4回臨時会会議録及び第5回定例会会議録については、現在、調整中であり、次回会議において承認することになった。

9 議題及び議事の概要

日程第1議案第19号 平成31年度使用中学校用教科用図書を採択することについて

副部長兼教育指導課長

義務教育諸学校の教科用図書については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律に基づき、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書を採択する場合を除き、4年ごとに採択することとなっている。今年度は、平成31年度から中学校において全面実施される「特別の教科 道徳」の教科用図書を採択しようとするものである。

また、本市は、埼玉県教科書図書採択地区の変更により、平成26年度から、第9採択地区、単独採択となった。このため本市の教科用図書採択については、川越市立小・中学校用教科用図書の採択に関する規則に基づき、「特別の教科 道徳」1種目の中学校用教科用図書について教育委員会が審議し、採択しようとするものである。

今年度の採択までの概要について説明する。本年5月から本日まで、規則に定められた各機関が、見本本が送付された教科用図書について、綿密な調査研究と慎重な協議・検討を行った。

教科書調査研究専門員会は、教科用図書について、公正中立な立場から真摯に調査研究を重ね、教科書調査研究専門員（以下「専門員」という。）による調査研究の結果報告書を作成し、教科用図書選定委員会に提出した。教科用図書選定委員会では、本日までの間に3回の会議を開催し、教科書調査研究専門員会から提出された「教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告」とともに、学校からの意見、保護者の意見を踏まえ、「市町村の教育委員会等が教科書を採択するに当たっての採択基準」を基に本市の観点を設定して協議・検討を行った。なお、教科用図書選定委員会から推薦教科書として報告されていない教科書についても、採択の対象であり、審議及び採択をお願いしたい。

教育長

審議及び採択の方法についてお諮りしたい。

中学校用教科用図書については、これまでに各選定委員により教科書見本について十分に研究されているところである。また、専門員の報告書、校長からの報告についても、全て事務局より事前に送付され、既に閲覧、研究されている。教科用図書選定委員会の報告書についても、事務局より届けられており、慎重に審議していくこととする。

審議及び採択の進め方については、選定委員からの説明を求め、審議及び採択することとし、採択の方法については、無記名投票によることとし、教育長及び教育委員4名の投票の結果、過半数の3票以上を獲得した教科書を採択とする形としてよろしいかお諮りしたい。

その際、票数が過半数に達しなかった、例えば、A者2票、B者2票、C者1票の場合は、A者とB者で再度投票を行うものとし、A者2票、B者1票、C者1票、D者1票の場合は、2票を獲得したA者を候補1として残し、1票ずつ獲得したB者、C者及びD者の3者で質疑後に再投票を行い、候補2を決定し、最後に候補1と候補2で質疑後に決選投票とするように、過半数を獲得するまで投票を行う形とすることを併せてお諮りしたい。

(全員異議なく同意)

教育長

「特別の教科 道徳」についての審議及び採択を行う。

選定委員

「特別の教科 道徳」の教科書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書8者である、東京書籍「新しい道徳」、学校図書「輝け 未来 中学校道徳」、教育出版「中学道徳 とびだそう未来へ」、光村図書「中学校道徳

きみが いちばん ひかるとき」、日本文教出版「中学道徳 あすを生きる」
「中学道徳 あすを生きる 道徳ノート」、学研教育みらい「中学生の道徳 明日への扉」、廣済堂あかつき「中学生の道徳」、「中学生の道徳ノート」、日本教科書「道徳 中学校」について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍「新しい道徳」と学研教育みらい「中学生の道徳 明日への扉」の2者とした。

推薦理由としては、東京書籍「新しい道徳」では、各教材の冒頭に、簡潔に主題が示され、巻頭には「道徳の授業はこんな時間に」があり、話し合いの参考例を掲載して「考え、議論する道徳」の手立てを示し、生徒が学習の流れをつかみ問題意識をもって取り組めるようにしている。巻末には、切り取り式のホワイトボード用紙、心情円盤が収録され、それらを活用することにより、心情の可視化や意見交流の活発化を図ることができ、生徒が主体的に考え、話し合いができるよう工夫している。「いじめ問題対応」と「生命尊重」について重点的に扱っており、教材を組み合わせたユニット構成とし、様々な側面から考えを深める工夫をしている。また、オリンピックといった各方面で活躍する著名人など、生徒に親しみやすい教材を扱っている。さらに、全学年で、役割演技を主体とした活動「ACTION」を2箇所設定している。各教材がシンプルで読みやすく、「つぶやき」コーナーが設置され書き込める工夫がある。挿絵、写真、漫画形式資料が掲載され、自己評価用紙が収録されている。

学研教育みらい「中学生の道徳 明日への扉」では、生徒が主体的に課題を発見し、解決する資質や能力を培うことを重視しているため、主題をあえて教材中に記載せず、生徒の問題意識を大切にした構成・展開になっている。冒頭では「考えを深める4つのポイント」を紹介し、主体的に見通しを持って学ぶことができるようにしている。また、巻頭の自分を見つめるページ、巻末の学びを振り返るページを通して、1年間の自分の成長を感じ、これからの生き方を考えることができる構成になっている。「生命尊重」と「いじめ防止」を重点テーマとし、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、答えが1つではない多様な見方や考え方の中で、生徒が自ら問題意識を持って多面的・多角的に深く考え、話し合いができる教材を積極的に取り入れている。特設ページ「クローズアップ」などを通して、生き方の選択肢を増やし、さらに学びの視野を広げるよう工夫されるとともに、問題解決的な話し合いや役割演技などの手立てが掲載され、生徒が主体的に考えを広げ、深められるようにしている。A4判の資料は、ゆったりとした紙面構成で、視覚的に捉えやすい。

委員

2点伺いたい。1つ目は「いじめの未然防止」について、非常に大事だと思うが、推薦のあった2者の教科書について、それぞれ「いじめの未然防止」という視点に

たったときの工夫について、どのような違いがあるのかも含めて伺いたい。

選定委員

推薦した2者ともに「いじめ防止」と「生命尊重」を重点とし、「いじめ防止」の視点から教材による直接的ないじめの扱いと間接的ないじめの取扱いがある。東京書籍「新しい道徳」では、いじめの教材を増やした「いじめ問題対応ユニット」を全学年に掲載している。いじめの場面や、傍聴者の視点から取り扱う教材を通して、いじめ問題について考えさせるようにしている。

学研教育みらい「中学生の道徳 明日への扉」では、いじめ防止を重点テーマとしているが、いじめの未然防止につながる直接的な教材や、間接的な教材に公正・公平・思いやり・偏見・差別や生命尊重などの内容項目を通じて、人の心の弱さ醜さを考え、生き方や価値について議論し、いじめの未然防止やいじめを生まない力を育てるようにしている。

委員

もう1点、道徳の場合は教えるだけではなく、「考え、議論する」ことが一番重要だと思うが、「考え、議論する」という視点にたったときに、推薦のあった2者の教科書については、どのような工夫がされているのか伺いたい。

選定委員

「考え、議論する」点においての工夫だが、一番必要なことは、何故、どのように道徳を学ぶのかについて分かりやすく明示したり、その方向として学習の課題を明確にしたり、発言を示したり、記録したりするなどの工夫が見られる教科書もある。さらに話し合うための道具としての資料や話題の提供をする教科書もある。推薦した2者について、東京書籍「新しい道徳」では、教科書巻末にあるホワイトボードと心情円盤等を活用することで生徒が主体的に「考え、議論する」道徳の授業への参加や展開がしやすいと考える。

学研教育みらい「中学生の道徳 明日への扉」の教材についても、「クローズアップ」「クローズアッププラス深めよう」で「考え、議論する」道徳に繋げやすいと考えている。

委員

道徳の場合、評価をするということが非常に難しいと思うが、教員は評価することにおいて、何を一番大事にしているか伺いたい。

選定委員

評価については、道徳の一番大きな課題であり、学習を評価するということについては、数値的には行わず、記述で行うことになっている。また、生徒の成長、1年間の成長であるとか、ある程度の期間を見たうえでの評価になると考えるが、授業時における学習状況の様子であるとか、道徳性に係る成長の様子についてを記述評価しなければならない。一定の期間について、前向きに学習している様子を注視

することから、1時間の授業における評価は考えていない。

委員

道徳の教科書について、若い教員も授業を行うと思うが、誰もが教えやすいという点で、推薦のあった2者に違いはあるのか伺いたい。

選定委員

教科書は、活用するためのものであるため、教員は授業を行うにあたり、創意工夫、努力を日々行っている。教員は、教科書のねらいを達成できるように努めるが、ねらいや価値観、発問例に沿って教科書を活用し、教えることが必要となる。その中では、教えやすい教科書が必ずしも良い教科書であるという判断はできないと考える。

委員

8者の教科書は、サイズがバラバラである。大きさによって生徒が扱いやすかったり、扱いづらかったりするの伺いたい。

選定委員

教科書の大きさは、B4判からA3判で、学研教育みらい「中学生の道徳 明日への扉」が一番大きくできている。教科書の大きさにより文字の大きさ、掲載されている写真の大きさ、挿絵の大きさなどレイアウトの違いはあるが、生徒に対して視覚的な部分以外の比較はできないと考える。

委員

別冊のノートが示されている教科書がいくつかあるが、別冊がある教科書と1冊の教科書との使いやすさの違いについて伺いたい。

選定委員

別冊を扱っているものは、2者あり、日本文教出版と廣済堂あかつきである。形式は、道徳ノートの形式が別冊になっている。一般的に道徳ノートは、記録することに優れており、後に記録した内容を確認でき、家庭に持ち帰り話題にできるという活用方法がある。さらに、その時、その時間に書いた評価を活用できるという点や経験が浅い教員でも、ノートに示された流れで授業を展開しやすいなどの点に違いがある。

一方では、発問が限られ、生徒の自発性や自由な考えによる記述がしにくくなるという点や、別冊があることにより、指導の創意工夫が狭められる。また、ノートを書くことにとらわれる授業になってしまう可能性がある点などが話題にあがった。

委員

小学校の道徳には、学研教育みらいの教科書を使用しているが、小中連携という点から見た場合に中学校の教科書も同じ出版社にした方が良いといった考えもあると思うが、その点はどう考えるか伺いたい。

選定委員

話し合いの中において、小中連携した教科書をとった考えは全くなく、8者の中から公平に検討したものである。

委員

中学生はちょうど子どもから大人に向かっていく時期であるが、発達の段階に合わせて、深く考えさせてねらいを達成させるためにどのような工夫がされているのか伺いたい。

選定委員

推薦した2者とも1年間を通した構成により、子どもの成長を発達の段階に則して授業できるように、教材を順に並べている。その中で、東京書籍「新しい道徳」は、付録や記録などが巻末にある。

学研教育みらい「中学生の道徳 明日への扉」は、「クローズアッププラス深めよう」が数箇所配列され、1年間を見通して活用できるようになっている。

委員

科学技術の発達の中で、様々な現代的課題が見受けられるが、先程のいじめの問題などにあるようにSNSなどを題材として取り入れている教材はあるのか、また、推薦のあった2者については、題材として取り入れているのか伺いたい。

選定委員

調査した中には、複数の教材を集め、現代の課題を克服していく、学んでいこうというかたちになっている教科書がある。その中で東京書籍「新しい道徳」、光村図書「中学道徳 きみが いちばん ひかるとき」や日本文教出版「中学道徳 あすを生きる」がユニット形式を採用しているが、その中で、いじめの未然防止を前端的に採用している教科書は、東京書籍「新しい道徳」である。また、いじめや差別のない社会にというテーマを設定している教科書は、教育出版「中学道徳 とびだそう未来へ」や学研教育みらい「中学生の道徳 明日への扉」で、いじめを直接的、間接的に取り扱う教材を通して、多面的、多角的に考え議論することができるようにする工夫をしている。

また、現代的な課題として先程のいじめ防止だけではなく、情報モラル、SNSの関係や防災安全の関係が記載されている教科書がある。その中で情報モラルについては、多くの発行者が、どの学年でも取り上げているが、東京書籍「新しい道徳」、学研教育みらい「中学生の道徳 明日への扉」、日本教科書「道徳 中学校」は、中学生の日常で起こりうるSNSの場面を具体的に取り上げている。

教育長

学研教育みらい「中学生の道徳 明日への扉」は、あえて主題名を最初に明示していないとの説明があったが、その点はどう考えるか伺いたい。

選定委員

教材の冒頭に内容項目や主題が明確に表記されており、ねらいを導入して用いる

ことができるようになってきている教科書もある。その中で、主題が明確にされることについての話し合いをもち、ねらいに沿った授業が展開しやすくなるメリットがある。一方で、主題が示されていることによって生徒の多様な考えが狭められることや、多角的な見方が狭められることがデメリットとして挙げられる。

なお、東京書籍「新しい道徳」は、教材の冒頭で主題に関して投げかける形になっているため、生徒が問題を見つけたり把握したりできるようにしている特徴があり、直接内容項目や主題名といった書き方ではない。

学研教育みらい「中学生の道徳 明日への扉」は、生徒が主体的に課題を発見して、解決する知識や能力を培うことを重視しているために、あえて主題名を本文に記載していないと考え、生徒の意識を大切にした構成・展開になっている。

教育長

これまでの道徳の副読本と、今回の教科書との違いは何か伺いたい。

選定委員

今回、副読本から特別の教科、「道徳」となり、教科書化するにあたって、大きく4点を加えている。1点目が、考え議論する道徳への一層の改善である。2点目が、いじめなどの心の問題を現実的な部分を含めた、直接的なものを取り入れたことである。3点目として、多様な教材を用い、読み物教材だけではないという点で各者工夫された教科書になっていることである。4点目は、教科としての学習評価である。

教育長

これから若手の教員が増えてくるが、誰もが教えやすいという点についてはどのように考えるか伺いたい。

選定委員

誰もが教えやすいとなると、導入部分でねらいに則した授業ができるように舵が示されているものや、教材の終わりに示されている設問がある。各者によって掲載されている設問の数や形式は異なるが、授業を展開する上では、発問の例として用いることができるため、教員側からすると活用しやすい、使いやすいことがある。

教育長

単なる読みものだけではなく、漫画など多様な資料を各者用いているとのことであるが、特に良い資料が多く取り上げられていると考える教科書はあるのか伺いたい。

選定委員

良い資料というものは、長年親しまれて使われている資料であると考え。道徳の授業で今まで取り扱われている資料が良い資料ではないかと考える。しかし、どの教科書のこの教材が特に優れているといった甲乙を付けるような判断はできない。

教育長

例えば、この資料は文章量が多すぎないか、読むことによって道德の授業よりも国語の授業になるのではないか、などの意見も聞こえてくる。教材などの文章の量について、指摘などのある教科書はあるのか伺いたい。

選定委員

教科書の量については、文字数だけではなく、読み応えであったり、その内容であったりといったものである。主観が入るが、じっくりと読むことを意識しているという観点では、研究のなかでは、光村図書「中学道德 きみが いちばん ひかるとき」が挙げられた。反対に、意見のように読み込んでいくなかで議論や考えを深めたりコミュニケーションを交わすといった時間を確保できるかという点についても議論があった。

教育長

評価について、生徒から多様な考えを引き出し、その多様な考えを評価するという点を考えると、教科書を見ると巻末において自己評価が行えるようにしている教科書もある。この自己評価を教える側の教員の意図するところへ導いていくといった懸念もあるが、自己評価を行うことについてどのように考えるか伺いたい。

選定委員

自己評価については、生徒にとってどうなのか、教員にとってどうなのかという2つの側面がある。自己評価をする欄が設けられている教科書もいくつかあるが、自己評価に頼り切ってしまう、それが教員の客観的評価になるとは限らないため、ここの扱いが非常に難しいといった議論があった。別冊で提出させる時に1つの生徒の変容を見て取ることができるため、それと自己評価とを合わせてどう扱うかについては、これから教員が授業を展開していくなかでの課題であると考えている。

教育長

推薦のあった2者の巻末については、柔軟な扱いになっていると思われるがこの2者については、どう考えるか伺いたい。

選定委員

教科書の最後に書かれていることがねらいとするものは、一定の期間における授業の成果として、生徒の成長の様子が考え書かれている点と考える。その点において、学期ごとや1年を通して、自らの言葉で書く自己評価は必要であり、評価の活用はできると考える。しかしながら、実際には、道德性について書くとなると難しいことであると考えているため、評価にあたっては、教員がきちんと生徒個人を見て、成長段階や成長した点を捉えることが正しい評価になると考える。特に、自己評価が書ける生徒が有利になるような評価はあり得ないと考える。

教育長

教科書の大きさ、重さ、道德に限らず最近の教科書は、紙質が良くなり重くなっている。そのため、児童生徒の負担になっているという保護者の意見があるため、

大きめの教科書についてどう考えるか伺いたい。

選定委員

実際に生徒が持つにあたって、大きさはどうなのか、重さはどうなのか、ページ数はどうなのかといった議論があった。特に1教材の長さが授業に影響してくるため、1教材の長さが、3から4ページの東京書籍「新しい道徳」、日本文教出版「中学道徳 あすを生きる」及び学研教育みらい「中学生の道徳 明日への扉」については、適当であると考えている。また、教材の後に考えたり議論したりすることに繋ぎやすい教科書や付録が付いている教科書は、ページ数の多さにも繋がっている。しかも、教材の中には、漫画などが入っている教科書もあり、挿絵などは、見やすい大きさに、導入や発問の場面や生徒が検討しなければならない場面、生き方を考えるといった場面などに用いられやすいため、教科書によっては、授業に対する様々な意図もあるため、教科書の大きさについては結論はでなかった。

教育長

いじめの未然防止について、推薦のあった2者についての説明はあったが、それ以外の教科書についての特徴を伺いたい。

選定委員

2者以外の他者のいじめ問題については、いじめの場面を直接扱っている教材と、様々な場面から他の人との生き方を考える間接的な教材がある。その点で光村図書「中学道徳 きみが いちばん ひかるとき」や日本文教出版「中学道徳 あすを生きる」については、直接的、間接的な教材を組み合わせたユニットで構成されている。また、学校図書「輝け 未来 中学校道徳」においては、いじめ防止マークが付いている教材は、直接的な場面を扱っている。教育出版「中学道徳 とびだそう未来へ」については、「いじめや差別のない社会に」というテーマでいじめや差別の場面を教材として取り扱っている。廣済堂あかつき「中学生の道徳」は、学年が上がるごとに、いじめをテーマとした教材が増える配列となっている。日本教科書「道徳 中学校」についてはお互いの視点、美の視点、友情信頼に重点をおいていじめを取り扱うといった特徴が見られる。

教育長

どの教科書もいじめの問題を取り上げている箇所が分かりやすく表記されているが、学研教育みらい「中学生の道徳 明日への扉」は、生徒が見たときにあまりはつきりしないと思うが、その点についてはどうか伺いたい。

選定委員

学研教育みらい「中学生の道徳 明日への扉」については、直接的ないじめの内容も教材に入っているが、比較すると幅広く、友達関係であったり、男女の問題であったり、外国人問題であったり、ネットを通してのいじめ問題というものが、幅広く構成されている。特徴としては、特設ページにおいて、メンタルトレーニング、

アンガーマネジメント、自己肯定感の3つの柱を全学年において設定をして、いじめを生まない心の育成を中心に編集している。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、東京書籍「新しい道徳」4票、学研教育みらい「中学生の道徳 明日への扉」1票、他は0票となり、「特別の教科 道徳」は、東京書籍「新しい道徳」を採択することとする。

日程第2議案第20号 平成31年度使用小学校用教科用図書の採択をすることについて

副部長兼教育指導課長

義務教育諸学校の教科用図書については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律に基づき、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書を採択する場合を除き、4年ごとに採択することとなっている。

また、本市は、埼玉県教科用図書採択地区の変更により、平成26年度から、第9採択地区、単独採択となった。このため、本市の教科用図書採択については、川越市立小・中学校用教科用図書の採択に関する規則に基づき、11種目の小学校用教科用図書について教育委員会が審議し、採択しようとするものである。

今年度の採択までの概要について説明する。本年5月から本日まで、規則に定められた各機関が、見本本が送付された教科用図書について綿密な調査研究と慎重な協議・検討を行った。

教科書調査研究専門員会は、各教科の教科用図書について、公正中立な立場から真摯に調査研究を重ね、「教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告」を作成し、教科用図書選定委員会に提出した。教科用図書選定委員会では、本日までの間に3回の会議を開催し、教科書調査研究専門員会から提出された「教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告」とともに、学校からの意見、保護者の意見を踏まえ、「市町村の教育委員会等が教科書を採択するに当たっての採択基準」を基に本市の観点を設定して協議・検討を行った。なお、教科用図書選定委員会から推薦教科書として報告されていない教科書についても、採択の対象であり、審議及び採択をお願いしたい。

教育長

審議及び採択の進め方についてお諮りしたい。

小学校用教科用図書については、これまでに各選定委員により、教科書見本について十分に研究されているところである。また、専門員の報告書、校長からの報告についても、全て事務局より事前に送付され、既に閲覧、研究されている。教科用図書選定委員会の報告書についても、事務局より届けられている。相当な量になる

が、慎重に審議していくこととする。

審議の進め方については、11種目の教科書について、種目ごとに選定委員からの説明を求め、全ての教科書の説明後、一括で審議を行い、説明順は国語、書写、社会、地図、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭科、保健としてよろしいかお諮りしたい。

(全員異議なく同意)

教育長

次に、採択の方法についてお諮りしたい。

採択の方法については、無記名投票によることとし、教育長及び教育委員4名の投票の結果、過半数の3票以上を獲得した教科書を採択とすることとし、全ての教科書について投票を行い、結果を公表することとしてよろしいかお諮りしたい。

その際、票数が過半数に達しなかった場合、議案第19号と同様の手順により過半数を獲得するまで投票を行う形とすることを併せてお諮りしたい。

(全員異議なく同意)

教育長

選定委員は国語の教科用図書の説明願いたい。

選定委員

国語の教科書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載された教科書5者、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書について、調査研究を行い、それらの調査研究結果を選定委員会において協議、検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍と教育出版の2者とした。

推薦理由については、東京書籍「新編 新しい国語」では、全体的に、児童が自覚して国語力を向上させられるように、方策を幾重にも講じている。各単元の「てびき」の終末に「言葉の力」欄を設け、その単元で中心的に扱った言語能力を単元の内容に即した表現で示している。これに関連させて、単元名に中心となる言語活動、その脇の「ねらい」に言語能力の要点、「てびき」には、ねらいに即した学習課題を明示している。単元構成に工夫があり、前半は指導事項を明確にした単元、後半は培った言葉の力を活用できるよう言語活動が中心の単元で構成されており、主体的・対話的で深い学びの学習が進められやすくなっている。教材文も内容に読み応えがあり、児童の感想に深みを与えられるものが多い。また、単元末の「言葉」欄、巻末の「言葉の広場」、随所に設けた「漢字の練習」等により、基礎的な学習内容である漢字・言葉の知識や語彙の獲得が年間を通して確実にできるような配慮されている。さらに、伝統的な言語文化や読書に親しむ方策も豊かである。

教育出版「ひろがる言葉 小学国語」では、言葉の力・国語の学力を育てるために、いくつもの方策を講じている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、はじめに単元の目標、学習のめあて、「学びのステップ」を示している。一方、

「読むこと」の単元では、手引きに3つの段階、導入・展開・活用を示し、読むことの技能を発展的に獲得させるようにしている。「ここが大事」で、学習のポイントを箇条書きでわかりやすくまとめている。また、各単元の学習活動がフローチャートで示され、児童が主体的に目標を持ち言語活動を通して指導事項が確実に身に付けられるよう工夫されている。更に、思考力や創造力を養うため、読書を促し広げる単元を設けたり、随所に本の紹介がされている。伝統的な言語文化に親しむような学年の発達段階を考慮して教材を配置している。語彙や漢字など基礎的な知識の獲得を促すため、「漢字の広場」や語彙指導ができる場を設けている。

教育長

書写について説明願いたい。

選定委員

書写の教科書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書6者、東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書、日本文教出版について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議、検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍と教育出版の2者とした。

推薦理由としては、東京書籍「新編 新しい書写」では、基礎的・基本的な書写技能を身に付けさせるための手立てを工夫している。巻頭で書写用具の使い方・取扱い方、姿勢について写真やイラストを使って示していること、教材文字の字形が細部まで整っていること、2色の淡い墨を用いて筆の穂先の通り道を示していること、筆順の流れを丁寧に示していることなどがある。児童が主体的に学習に取り組めるように手立てを講じている。課題解決を図り、他の文字に応用する力を育てるようにしていること、巻頭に5段階の「学習の進め方」を示していること、毛筆教材ページの左端に学習事項のインデックスを付け既習事項との関連を示したことなどである。書写で学習したことを生活に生かしたり、書写への興味・関心をより一層高めたりする工夫がある。「硬筆に広げよう」「ノートに書こう」「書いて味わおう」「生活に広げよう」のページがある。

教育出版「小学 書写」では、基礎的・基本的な書写技能を身に付けさせるための手立てが幾重にも工夫されている。巻頭で書写用具の使い方・取扱い方や前学年の基本的な筆使いについて写真やイラストを使って示していること、2色の淡い墨を用いて筆の穂先の通り道を示していること、毛筆学習の前後に硬筆で書く欄を設けていることなど、毛筆学習への抵抗を減らし無理なく学習に取り組める工夫が多数ある。児童が主体的に学習に取り組めるように導くための手立てを講じている。巻頭に7段階の「学習の進め方」を示していること、学習の進め方をマークも使い「めあて」「考えよう」「ここが大切」の流れで示していることなどである。文字への興味・関心を高める手立ても随所に講じている。「トライあんどチャレンジ」、「知りたい文字の世界」などのページがあり、学年が上がるにつれて、いろいろな

文字の書き方を学習できることなどである。

教育長

社会について説明願いたい。

選定委員

社会の教科書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書4者、東京書籍、教育出版、光村図書、日本文教出版について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議、検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍と日本文教出版の2者とした。

推薦理由として、東京書籍「新編 新しい社会」では、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」を学習過程の基本としたページ構成となっており、児童・教員にとっても問題解決的な学習の流れをつかみやすい。また、全体的な概要を捉える学習問題と、それに関わる個々の社会的事象を追究していく学習問題を効果的に組み合わせ、社会的な見方・考え方を育てる工夫がされている。加えて、学習場面に応じて学び方や学習内容のキーワードを示したり、「いかす」では社会参画に重きを置いた内容を扱ったり、「表にする」「地図で表す」「新聞にする」などの多様な学習のまとめ方を取り上げたりして、学び方を習得し、主体的に学習できるよう工夫されている。写真、統計資料や地図等の資料が多く、見開きのページにおいて多様な資料が掲載されており、興味・関心、資料活用能力の育成の上からも有効である。また、防災などの新たな課題に関する教材の充実も図っている。

日本文教出版「小学社会」では、疑問を基に学習問題を設定し、児童の思考の流れを大事にした学習構成となっている。児童が意欲をもって追究し、問題を解決していくことができるよう工夫されている。また、1単元に学習問題を2つ設定し、取り上げた社会的事象の様子だけではなく、現在の課題やその解決策を追究する2段階の単元構成により、社会に参画する資質や能力を育成しようとする工夫も見られる。重要語句の太字表記、学び方や調べ方を例示するとともに、学習の振り返りの活動も充実させており、児童の主体的な学びを支援できるよう配慮されている。資料が豊富であり、大きな写真資料や臨場感のあるイラスト等が見開きに配置され、興味・関心を持って学習が展開できるよう工夫されている。また、防災などの新たな課題に関する教材の充実も図っている。

教育長

地図について説明願いたい。

選定委員

地図の教科書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載された教科書2者、東京書籍、帝国書院について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議、検討したので、その推薦理由について報告する。

推薦理由として、東京書籍「新編 新しい地図帳」では、大判になっているとい

うことが大きな特徴で、地図や巻末の資料等が大きく見やすく、且つ、地図の色調はユニバーサルデザインを用い、はっきりと分かるように配慮されている。また、絵による記号も多く用いられ、各地域の特色を感覚的につかみやすいよう工夫されている。多くのページで地図上にキャラクターを登場させ、吹き出しを用いながら児童に投げかけ、興味関心を高めるよう工夫されている。巻頭では、地図帳の使い方を丁寧に説明するとともに、全体図は土地の高低を中心にした色分け、拡大図では土地利用の分布を中心に色分けするなど工夫している。巻末の資料では、大判の特徴を活かし、気候、産業、歴史などの資料を分かりやすく掲載し、4年生から6年生の学習で幅広く活用できるよう配慮されている。索引は、多くの地名を掲載し、調べた地名をチェックできるとともに、自分の行ったことのある場所を書き込む「マイ・インデックス」も用意されている。

帝国書院「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」では、各ページの左端に地方区分を表したインデックスが付けられ、わかりやすく、地図の配色も明るく目に優しい穏やかな色調で、且つ、文字もわかりやすく配置されている。また、各見開きには土地の高さと土地利用のインデックスも付いていて、土地の様子を把握しやすい。市町村名もより詳しく掲載され、交通網等は最新の情報を加えるなど、調べる活動を一層充実できるよう工夫されている。歴史の記号、産業の記号、環境の記号、世界遺産・世界一の記号等に分類整理され、加えて、写真や地図資料等が豊富で、それらを適所に差し込むことで、4年生から6年生まで幅広い学年で十分に活用できるよう配慮されている。索引を使つての探し方や調べ方がコンパクトに示され、都道府県名や歴史的な地名等が分かるように、地名の文字を赤、黒、青で色分けする工夫もされている。巻末の資料は、情報量が豊富であり、興味・関心を持って主体的な学習を進めることができるよう配慮されている。

教育長

算数について説明願いたい。

選定委員

算数の教科書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書6者、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館、日本文教出版について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議、検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍と教育出版の2者とした。

推薦理由として、東京書籍「新編 新しい算数」では、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るため、適度な練習問題を設け、繰り返し適用したり、学び直しや習熟を図ったりするなど、自学自習の学習習慣、主体的な学習ができるように配慮されている。思考力・判断力・表現力の育成に向けて、問題解決的な学習過程を基本に構成されている。特に多様な考え方や表現方法を紹介し、対話的な学びを通して深い学びとしての数学的な見方・考え方を深められるよう配慮している。日常の

事象と関係する絵・写真・図表が充実していて意欲的な学びへの導入を図るとともに、進んで実生活に生かそうとする意欲付けが図られている。ノート指導も適所に配置され、児童が問題解決的な学習の仕方を身に付けながら自分の考えを表現する活動が充実するよう工夫されている。第6学年では、中学校の数学を具体的に経験する学習を通して、中学校の数学に興味をもって臨めるよう工夫されている。

教育出版「小学算数」では、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるため、問題解決的な学習展開を通して既習事項を振り返れるようにするとともに、習熟を図る練習問題を設けている。導入に興味・関心を高める内容を取り入れ、算数的活動を通して算数のよさを実感し、算数を活用しようとする態度を育むよう工夫されている。算数の系統性を大切にしている、学年を越えて単元間のつながりを明確にし、これまでの学びを生かした学習展開ができるよう配慮されている。また、ノート指導を充実させて、思考力・判断力・表現力の育成を図る配慮がされている。作業的・体験的な活動場面では写真を用いて活動への意欲付けを図っている。また、吹き出しにより児童の言葉による授業づくりを大切にしている。多彩なコラムにより学習を広げる楽しさに気付き、「算数ワールド」では、算数的活動の楽しさや数理的処理のよさを味わうことができる。

教育長

理科について説明願いたい。

選定委員

理科の教科書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載された教科書5者、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議、検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍と啓林館の2者とした。

推薦理由について、東京書籍「新編 新しい理科」では、巻頭では学習する内容が領域ごとに明示され、学年で学ぶ全体像をつかむことができる。また、問題解決の学習過程を児童に分かりやすく説明している。さらに、各単元の中では「問題」「観察・実験」「まとめ」の文字を大きく示しつつ学習過程を緑色のラインで表示することで、児童が見通しをもって学習に臨めるような工夫がされている。単元の導入では、内容に関わる鮮明な写真を使うことで身近な事象に対する児童の興味・関心を高めているとともに、写真そのものが学習過程で必要な観察資料となっている。「まとめ」の後には「理科のひろば」があり、学習内容を生活に結びつけることができる。また、単元末の「たしかめよう」では、学習事項の確認問題が用意され、基礎的・基本的事項の定着の確認と自己評価をすることもできる。

啓林館「わくわく 理科」では、巻頭に「学習の進め方」を設けて問題解決の過程を示し、児童が主体的に学習を進められるよう分かりやすい説明を加えている。単元の導入では、見開きで自然事象や活動場面のダイナミックな写真の掲載や、

「学習のめあて」を示して児童の学習意欲も高めている。吹き出しが考える内容の糸口や手立てにもなっている。さらに、単元の各所に「話し合い」を設け、観察実験前後の学習活動を充実させている。単元末の「たしかめよう」は、科学的用語の確実な定着を図る構成であり、「ひろげよう」は、実社会と関連した内容で理科に一層興味を持たせる工夫がされている。また、各学年に「科学の目で見てみよう」が設けられており、科学的な思考が身につくようになっている。別冊「わくわく理科プラス」は、学習前後に自分の考えを書き込むことで言語活動の充実を図ることができるとともに、知識・理解の定着を確認するまとめの学習としても有効利用できる。

教育長

生活について説明願いたい。

選定委員

生活の教科書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載された教科書7者、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、光村図書、啓林館、日本文教出版について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議、検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍と啓林館の2者とした。

推薦理由として、東京書籍「新編 新しい生活」では、上巻「すたあとぶっく」では、保護者へのメッセージ掲載をはじめ、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に配慮がされている。また、写真とイラストの量的バランスが良く、ダイナミックでアングルの良い写真や明るい色調のイラストで児童の関心・意欲を高めている。紙面の色が季節毎に変わるよう工夫され、季節感を感じながら学習を進めることもできる。さらに、公園・町探検など継続的に繰り返し関わる活動や児童・教師の吹き出しの工夫などにより、気づきを促したり、気づきの質を高めたりする工夫もされている。各単元の固定された位置に「やくそく」欄があり、活動時に注意することは何かを児童自身が気づくように指導することができる。また、巻末の「べんりてちょう」には、安全面での指導事例や道具の使い方、健康な暮らしのための配慮事項などが分かりやすくまとめられ、指導をする上で効果的に活用できる。

啓林館「せいかつ」では、上巻は、「いちねんせいになったよ」からスタートし、通学路や学校生活の1日について、気づいたことを発表したり、話し合ったりしながら、学校が安心して生活できる場であることを実感できる工夫がされている。各単元は、導入の「わくわく」、主な活動の「いきいき」、交流活動の「つたえあおう」、広げて深める「ちゃれんじ」の4段階で構成され、それぞれの段階毎に活動のヒントとなる言葉や吹き出し、活動例が示されている。別冊「せいかつたんけんブック」には、豊富な写真とイラストが掲載され、野外活動の際に使用できる。また、持ち運びしやすい大きさと丈夫な作りで2年間を通して活用することができる。上巻末の「わくわくずかん」、下巻末の「いきいきずかん」には、動植物の写真や

発表の仕方をはじめ、動物との触れ合いや野菜の育て方、物づくりなどについての資料が掲載されている。

教育長

音楽について説明願いたい。

選定委員

音楽の教科書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書2者、教育出版、教育芸術社について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議、検討した結果、推薦すべき教科書は、教育出版と教育芸術社の2者とした。

推薦理由について、教育出版「小学音楽 音楽のおくりもの」では、基礎的な内容を扱う題材とそれによって培った力を生かした発展的な題材を配し、構成や配列が工夫されている。また、幅広いジャンルの楽曲が取り上げられ、多様な音楽に触れることができる。〔共通事項〕が明示され、学習の焦点化が図れるよう工夫されている。音楽を形づくっているものを「音楽のもと」と称し、巻末にまとめも掲載している。「もっとあそぼう」のコーナーや鑑賞、音楽づくりにおいて、書き込み欄を設けて主体的に学習に取り組める工夫がされている。見開きページの教材提示が多用され、色鮮やかな写真、イラストが大きく掲載され、児童の興味・関心を高めるよう工夫している。表現や鑑賞教材と関連した内容を「音のスケッチ」として取り上げ、音楽づくりに取り組めるよう工夫されている。題材のねらいに沿って、表現及び鑑賞の関連性が図られている。

教育芸術社「小学生の音楽」では、基礎的・基本的な事項を身に付けさせるために楽しみながら、無理なく積み重ねの学習ができるように工夫されている。表現と鑑賞の分量も適切であり、児童の発達段階に応じた教材が幅広いジャンルから選定され、多様な音楽に触れることができる。〔共通事項〕をどのような学習内容で活用するのかが明示され、学んだ事柄について巻末の「ふりかえりのページ」で定着を図ることができる。分かりやすい題材設定と学習目標、学習の見通しがもてるような構成や配列が工夫されている。学習活動の進め方が示され、発展的な教材も充実しているため、見通しをもった主体的な学習が進められる。題材名は該当ページのインデックス上に示され、学習目標もページ上部に大きく示されている。低学年において「音の高さ」について丁寧に説明されており、児童の実態に即している。楽器の持ち方も正しく提示されている。共通教材を「こころのうた」とし、季節感あふれる写真や絵と共に掲載することで、情景を深く味わって学習できるよう工夫されている。

教育長

図画工作について説明願いたい。

選定委員

図画工作の教科書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書2者、開隆堂、日本文教出版について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議、検討した結果、推薦すべき教科書は、開隆堂と日本文教出版の2者とした。

推薦理由について、開隆堂「図画工作」では、学習の目標を見開きの左上に明示し、見開きの右下には、児童が自己の学びを確認できるよう「ふりかえってみよう」コーナーを設置している。加えて、掲載されている作品例の質が非常に高く、且つ、制作の発想やヒント、留意事項を吹き出し風に掲載し、児童の制作への意欲を高め主体的な活動をいっそう促すことができるよう工夫されている。取り上げられている題材については、児童の発達段階に応じ系統的に配置され、楽しく着実に図画工作における力を身に付けることができるよう配慮されている。また、囲みを使って、表現の技法、制作の手順、用具の使い方等を分かりやすく提示しているため、児童にとっては、単元での活動を把握しやすく、教員にとっても活動内容をイメージすることができ、指導性を発揮しやすい。巻末では、材料や用具の取り扱いを示すとともに、表現における基礎的・基本的な知識や技法を確認できるよう工夫されている。

日本文教出版「図画工作」では、図画工作でのねらいを題材名の右に明示し、児童・教員の双方で学習の方向性やゴールを共有できるよう配慮されている。また、題材における学習活動の様子を、児童の活動している写真等で大きく紹介し、表現する喜びや楽しさが伝わるよう工夫されている。更に、各ページに加えられた吹き出しが、活動を広げたり深めたりする手がかりとなり、主体的な学習を促すよう配慮されている。取り上げられている題材については、発達段階に応じ系統的に配置されており、楽しく図画工作の力が付くように選ばれている。また、活動中に気を付けることや片付けについても見開きの右下にコーナーを設けるなど、細やかな配慮がされている。巻末では、材料や用具の使い方、表現における基礎的・基本的な知識や技法を確認できるよう工夫されている。

教育長

家庭科について説明願いたい。

選定委員

家庭科の教科書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載された教科書2者、東京書籍、開隆堂について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議、検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍と開隆堂の2者とした。

推薦理由について、東京書籍「新編 新しい家庭」では、全ての学習項目で問題解決的な学習ができるように「1 見つめよう」「2 計画しよう・活動しよう」「3 生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」という3つのステップで展開さ

れており、学習が確実に身に付くよう工夫されている。また、各ステップに「学習のめあて」とそれに対応する「ふり返ろう」が設定され、目的意識を持って学習に取り組めるようになっている。今日的な課題への対応については、防災、伝統文化、キャリア教育、環境、安全指導が掲載されている。実習・制作の手順も、実感を伴って作業が進められるように写真で示している。巻末の拡大版では、安全に実習するため、実物大の作業場面の写真を掲載し、実習前に練習できたり、確認できたりするよう工夫されている。学んだことが書き込めるようになっていたり、キャラクターの吹き出しの内容が工夫されていたりし、自分の考えを持ちやすくしている。

開隆堂「小学校 わたしたちの家庭科」では、2年間の学習を見通した内容構成となっていて、5年生での基礎・基本を基に、6年生では、計画的に工夫し、家庭科の学習が見通しを持って学べるよう工夫されている。また、学年ごとに大テーマを設定し、スモールステップで学習が進められるようになっている。題材ごとに

「学習のめあて(目標)」と本文の項目番号「ふり返ろう、生かそう」が対応していて、主体的な学習を進める上で指導と評価の一体化が図られている。課題の投げかけにより、学習における「習得」「活用」「探求」がバランスよく配置されている。レイアウト、デザインは、児童の発達段階・思考の流れや視覚を考慮して、写真や図、色彩などカラーバリエーションの配色となっている。巻末に、家庭科でよく使われる用語一覧を掲載するなどの工夫がされている。家庭科としての安全・防災教育の観点から、防災マークや食物アレルギー、食中毒への対応も記述され、実感を伴った構成になっている。

教育長

保健について説明願いたい。

選定委員

保健の教科書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載された全ての教科書5者、東京書籍、大日本図書、文教社、光文書院、学研教育みらいについて、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議、検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍と光文書院の2者とした。

推薦理由について、東京書籍「新編 新しい保健」では、学習の流れが单元ごとに明確で、課題解決の力を育てる紙面構成になっていて、児童の主体的な学習活動を促すよう工夫されている。各項の冒頭に、「学習課題」が明確にされ、その解決に向けて「学習活動」が表されて、学習の流れと活動内容が分かりやすく工夫されている。また、教科書のサイズが、28ミリメートル広く、すっきりと見やすいレイアウトになっている。更に言語活動を充実させるための「記入欄」が多く設けられている。キャラクターやイラスト、写真などを豊富に掲載し、色調も目に優しい柔らかなものになっている。学習内容を広げ、深める「資料」が豊富で充実しており、今日的課題である防災教育、安全教育、薬物乱用防止教育等の視点も踏まえて

構成されている。保健の既習事項や他教科との関連、人とのつながりや実生活とのつながりを重視したものになっている。単元の終わりには「広げよう」という資料が掲載され、発展的、補足的な学習をしやすいように工夫されている。

光文書院「新版 小学保健」では、習得すべき基礎的・基本的な学習内容を、紙面の冒頭に「つかむ」コーナーで位置付けて、知識を確実に習得できるよう工夫されている。また、習得した知識を基にして考える「あてはめよう」「見つけよう」「つたえよう」という「活用」の欄が設定されており、思考を深める構成になっている。大事な語句は、ゴシック体の太字で示され、意識化を図っている。学習したことを基に、児童が書き込みをしたり、友だちにアドバイスしたりするなど言語活動を充実させることで、主体的に学習に取り組む態度を養うように工夫されている。また、イラスト、図表、写真等の資料が豊富に掲載され、視覚的に理解を促す工夫がされている。発展的な学習を扱った「はってんコーナー」や、学習内容を広げる「保健の広場」も工夫されている。

(全教科書を一括で審議)

委員

小学校では、国語の授業時間が多く、教科の要となっていると思うが、現行の教科書、東京書籍「新編 新しい国語」については、学校ではどのように評価されているか伺いたい。

選定委員

教材の内容が多岐にわたる話題で読み応えがあり、読み物に対する関心欲が高まる内容となっている。また、国語科は、算数や理科といった教材と違い「何を教えるのか」という学習内容が掴み難いところがあるが、現在の教科書、東京書籍「新編 新しい国語」は、特に学習内容「何を指導するのか」が、明確になっているため使いやすくなっている。

委員

今回の調査研究については、前回のものをベースにしていると思われるが、今回新たに調査研究又は選定委員会において新たなテーマで研究・検討したものはあるか伺いたい。

副部長兼教育指導課長

今回の研究の視点は、前回の調査研究結果を基に行ったため、新たな視点はないが、実際に使用している現行の教科書の状況や「学校における教科用図書研究結果(報告)」なども踏まえて調査研究は実施した。

委員

現行の教科書で、現場の教員からの意見や評価については全体的にどうか伺いたい。

選定委員

先程の説明でもあったが、実際に各学校で使用した教員の意見を集約している。保護者からの意見等も集約した中で、また新たな意見を取り入れながら議論した。

委員

保護者や現場の教員の意見も取り入れているとの事だが、主な意見としてどういったものがあったか、参考に伺いたい。

選定委員

主な意見として、「国語は光村図書がよい。説明文の中身が教材文として要約しやすい。言葉のコラムもよい。算数は東京書籍がよい。」や「教科書会社により、算数などは、問題数、単元の構成等に違いがあり、同じ教え方でも、アプローチの仕方によって、組み立て方、児童の理解のしかたも変わってくるのだろうなと思いました。」といった意見があった。

委員

子どもから見て、現行の教科書が扱いやすいといったような点でどのような評価であったのか伺いたい。

選定委員

現行の教科書のためプラスの評価になってしまうが、教員側からすると授業の仕方が分かりやすい、慣れているということがある。児童の立場からも、教科書がこれまでと同様であるという点で学校においても家庭においても利用しやすいという利点がある。

委員

家庭学習では、現行の教科書の方が教科書が変わるより学習しやすいという理解でよいか伺いたい。

選定委員

そのように理解している。

委員

本市は、最重要課題として学力向上をあげている。特に小学校については、学力の向上を大きなテーマとしているが、どの教科のテストも問題を理解することが重要だと考える。その意味では、小学校の国語は、大切な教科だと思うが、現行の教科書については、どういった評価がされているのか伺いたい。

選定委員

国語の学力については、現行の教科書は、学力向上の手立てを幾重にも講じていて、学習内容が明確である。また、巻末にある学習用語、学習内容で使う用語がよく整備されていて教員がそれを使って指導するうえでも学習内容が明確である。学力調査の結果等を考えると現行の教科書は、複数の教材を比較したり、関連付けたりして、結果を求める単元構成が多くあり、言語活動を重視する単元構成になっている。学力調査に求められている学力をつけるには、とても適したものであると考

える。

委員

教育出版「小学書写」の推薦理由の中で、「基礎的・基本的な書写技能を身に付けさせるための手立てを工夫している。」とあるが、具体的にはどのような工夫がされているのか伺いたい。

選定委員

用具の使い方、準備の仕方、片付け方、筆の持ち方、筆の運び方等が写真や図解で分かりやすく示されている点が工夫されている。

委員

社会科で推薦のあった2者の教科書は、今非常に問題になっている防災教育についての記述は、どのように扱っているか伺いたい。

選定委員

どちらの教科書も防災教育について取り扱っている。東京書籍「新編 新しい社会」では、東日本大震災について、5年下巻「自然災害を防ぐ」の中で写真を織り交ぜ2ページ半の紙面を使い扱っている。

日本文教出版「小学社会」では、同じく5年下巻「さまざまな自然災害」の中で、自然災害の一例として東日本大震災の取り扱いをしている。また、地震については、阪神・淡路大震災を大きく扱っている。

委員

地図について、推薦のあった2者の教科書の良いところ、特色をそれぞれ伺いたい。

選定委員

帝国書院「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」では、地図帳としての情報が豊富であり、内容密度の高い大変詳しい地図になっている。写真や資料が大変豊富で、適時掲載している。

東京書籍「新編 新しい地図帳」は、図版が大きくなっているため、その分見やすく分かりやすくなっているのが特色である。

委員

図工について、活動することや図画工作に力が付く題材といったものは、推薦のあった2者の教科書については、どのようなものがあるか伺いたい。

選定委員

力が付くという事では、創作意欲も含めて考えると質の高い作品を参考にしていくことが大きく関わっていると考え。両者とも吹き出し等を活用しながら学びを高めていく工夫がされている。両者の違いを考えた場合、質の高い写真がどれだけあるかということが大きな違いではないかと考える。

委員

国語について、学力向上という点に照らし合わせると、今の子どもたちは、長い文章を読むことを敬遠する、目をそらしてしまっていると思われる。そのため、長い文章を理解しようとする力が下がってきてしまっていると考えるが、読み物としての教科書のボリュームについて伺いたい。

選定委員

読み物のボリュームについては、各者とも長い教材、いろいろな内容の教材を揃えている。現行の教科書では、並行読書として、読み物の紹介だけではなく、学校図書館を利用し、長い物語を読んだり、長い資料を読み比べたり、新聞記事や広告等といった多様な文字教材を用意して、また用意しながら学習ができるように作られている。長い文章を読む力というものは、教科書だけではなく、多様なものを扱いながら学習していく内容になっている。

委員

社会について、先程防災教育について、推薦のあった2者についての説明があったが、2者以外の教科書については、防災教育の取り扱いはどうなっているのか伺いたい。

選定委員

推薦した2者以外の教科書についても、防災教育については、今日の課題ということでそれぞれ取り扱っている。

委員

内容としては、推薦のあった2者と同様のものを扱っているのか伺いたい。

選定委員

扱い方については、各者特徴があると思うが、基本的な部分は同じである。

委員

埼玉県に関する記述について、差はあるか伺いたい。

選定委員

各者とも、埼玉県に関する記述は見受けられるが、東京書籍「新編 新しい社会」では9箇所でもっとも多く掲載している。日本文教出版「小学社会」は2箇所である。

委員

算数について、学習意欲を高めるためにどのような工夫がされているのか伺いたい。

選定委員

学習意欲には、単元ごとの学習意欲という考え方もあるため、教科書を開いたところでの学習意欲や算数全体の学習意欲などが考えられる。問題解決的な学習過程を取り上げ、その日常的な問題を取り上げ、それを算数の答えに乗せて、より核心の問題へ導き、そしてそれを解決しながら最終的に生活に活かしていくことにより

学習意欲を持たせ、それを持続強化に繋がられると考える。

委員

理科について、啓林館「わくわく 理科」のみ、別冊「わくわく理科プラス」との2冊構成になっているが、2冊構成のメリットとデメリットを伺いたい。

選定委員

別冊「わくわく理科プラス」については、単元の導入と終末で使用する。導入では、学習事項を明確にしたり、学習内容に対する自分の考えを書いたりすることに活用し、終末では、教科書本冊の「力だめし」のほか、答えを導くまでのスローステップのまとめをしたり、学習後の振り返り、感想を書かせることによって活用している。

メリットは、授業で教員が発問することはもちろん、授業の初め、単元の初めと終わりに書かせるという活動により、より児童の思考力が啓発されると考える。また、別冊「わくわく理科プラス」は、予習復習など、家庭学習に活用できる。デメリットは、特にないと考える。

委員

音楽について、推薦のあった2者において、様々な伝統的音楽や音楽文化についての配慮がされているか伺いたい。

選定委員

どちらも日本の伝統的な楽曲、古典音楽や民謡音楽を取り上げている。この点については2者に大きな差異はない。楽器の扱いについても、琴を含めた曲や尺八の曲などを鑑賞資料で取り上げている。その点についても2者に大きな差異はなく、違いとしては、単元構成での違いがある。

教育長

本市の小学校において学力向上の問題があるが、基礎学力の向上に向けて、全ての教科において推薦された2者の特徴的な工夫を伺いたい。また、推薦された2者以外の教科書においても特徴的な工夫があれば伺いたい。

選定委員

国語について、推薦した東京書籍「新編 新しい国語」では、単元構成において工夫があり、前半に指導事項を明確にした単元、後半は培った言葉の力を活用できるような単元構成になっている。基礎的な力が、実際の場面で活用できるような配慮がされている。また、付録に「学習で使う言葉」「言葉の力のまとめ」「言葉の力を活用しよう」などが設けられていて学習を通して身に付ける言語の能力が確実に獲得ができるようになっている。また、言語活動をくり返し使うことで、基礎的な学習内容である漢字、言葉の知識、語彙の獲得が確実にできるようになっている。

教育出版「ひろがる言葉 小学国語」では、学習内容を書く言葉の力として身に付けられるような単元が設けられている。例えば、落語を取り上げた単元では、場

面や人物の様子を想像して読み、落語を音読したり、演じたりするように設定されている。読んだ感想を書いて友達に伝えよう、実験をとおして明らかになったことを説明しよう、何々になったつもりで日記を書こうなど、書くことを通して言葉の力を育てるための工夫が随所にされている。

選定委員

書写について、推薦した教育出版「小学 書写」の大きな特徴は、指導事項が非常に分かりやすく写真やイラストを使って示している。また、学習の進め方が7段階で、マークを使って「めあて」「考えよう」「ここが大切」といった段階を追った指導の仕方になっている。

東京書籍「新編 新しい書写」では、教科書が大きめになっていて、脇にインデックスを付けて学習事項が明確になるように工夫されている。

選定委員

社会について、推薦した東京書籍「新編 新しい社会」では、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の学習過程が明確なページ構成になって、児童が問題解決な学習を掴みやすいところが学力の向上に向けて工夫されている。

日本文教出版「小学社会」では、児童の疑問点を基に学習問題が設定されていて、児童の思考の流れを大事にしているところが学力の向上につながると考える。

選定委員

地図について、推薦した帝国書院「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」では、情報が大変豊富であり、内容密度の高い地図になっているところが、各種学習の役に立つと考える。

東京書籍「新編 新しい社会」では、図版が大きくなっていて、種類を増やすというよりは、地図の見やすさ、使いやすさ、分かりやすさに比重を置いてあるところが特徴である。

選定委員

算数について、推薦した2者では、例えば教科書単元のスタートの部分において、東京書籍「新編 新しい算数」では、小数のかけ算において、小数のかけ算を考えようといった活動を意図した単元で隙間なく課題が設定されている。それに対して、教育出版「小学算数」では、「小数のかけ算」のように単元名がそのまま示されている。

単元の終末においては、東京書籍「新編 新しい算数」では、「しあげ」において、具体的な問かけが示され、単元の学習を振り返ることができる。教育出版「小学算数」では、「まとめ」において、4コマ漫画を用いて単元の核となるような学習事項を振り返ることができる。

巻末においては、東京書籍「新編 新しい算数」では、「算数自習コーナー」において自学自習ができるような様々な補充問題が設定されている。教育出版「小学

算数」では、「学びの手引き」を設け、様々な数直線の書き方やコンパスや三角定規、分度器の使い方など、授業で学んだものを復習したり学習したりすることができる。

選定委員

理科について、推薦した東京書籍「新編 新しい理科」では、問題解決の学習過程を児童に分かりやすく説明し、児童が見通しを立てて学習に臨むことができる。また、単元末の「たしかめよう」では、学習事項の確認問題、チェックなどがあり、こちらを用いることにより、学力向上につながると考える。

啓林館「わくわく 理科」では、単元の各所に「話し合い」が設けられ、観察実験前後の学習を助け、学習活動を充実させるものとして、別冊「わくわく理科プラス」の使用により学力向上につながると考える。

選定委員

生活について、推薦した東京書籍「新編 新しい生活」では、幼児教育と小学校教育の円滑な接続が配慮されている。スムーズに小学校生活に溶け込むことは、学力向上につながると考える。この教科書は、写真やイラストといった児童の興味関心を引く資料がたくさん掲載され、色づかいなども低学年の児童にとっては、大きくインパクトがあり、学習意欲が高まることで学力向上につながると考える。

啓林館「せいかつ」では、気付いたことを発表したり、話し合ったりすることに重きが置かれ、それが学習意欲につながり、結果、学力向上につながると考える。

選定委員

音楽については、2者しかないため比較という形になってしまう。音楽の何を学ぶのかということが明確に教科書に明示されている。この明示の仕方が2者で差異がある。教育芸術社「小学生の音楽」は、インデックス上に題材が示され、教科書上部に学習目標が大きく示され、見やすくなっている。また、どちらの教科書も教材の配列を工夫し、最初は、初歩的な内容から開始し、それがさらにもう少し深める内容に向かっていくように並んでいる。どちらの教科書もそれぞれ違いはあるが、説明した点においては、大きな差異はない。また、児童にとって、この曲で何を学ぶのかということが、分かっている、分かっていないということでは、学力向上に差がでるが、どちらの教科書もここでは何を学習するのかが分かりやすく説明されているため、教員が指示しなくても、自分たちで理解し、学習が進めやすくなっている。

選定委員

図画工作について、推薦した2者の大きな違いは教科書のサイズで、開隆堂「図画工作」は、A4サイズ、日本文教出版「図画工作」は、A4サイズの縦を2センチメートルほど小さくしたサイズになっている。その紙面の都合で、サイズの大きい開隆堂「図画工作」の方が、写真が大きく非常に見やすくなっている。

開隆堂「図画工作」は、鑑賞として「ふりかえって、はなしあおう」のコーナーを設置し、言語活動を積極的に構築させていくことによって、造形的な創造活動の基礎的な能力が身に付くよう配慮している。

日本文教出版「図画工作」は、児童の言葉を吹き出し等で対応して、児童がその言葉によってヒントを得ることができる作りになっている。また、幼保小中との連携を意識した発達段階に応じた流れをしっかりと捉えた、児童に押し付けることのないような工夫が見られる。また、「気を付けたいこと」や「かたづけ」といった基本的なことについても示されている。

選定委員

家庭科については、2者しかないため比較という形になってしまう。東京書籍「新編 新しい家庭」は、3つのステップに分けて展開している。開隆堂「小学校わたしたちの家庭科」は、ステップとは限らないがテーマに沿ってスモールステップで学習が進められるようになっている。どちらも、教員の指導は入っていくが、児童たちが自学自習できるように図解説明や写真で、例えばコマ送りのように写真を入れ、自分たちでそれを確認しながら学習や製作が進められるように工夫されている。

開隆堂「小学校 わたしたちの家庭科」は2年間の学習を見通した構成となっている点が大きな違いである。

選定委員

保健について、推薦した2者どちらも写真とイラストを用いて基礎的・基本的知識を習得しやすいように工夫されている。東京書籍「新編 新しい保健」では、項目ごとに「学習課題」が明確に記述され、その解決に向けて、様々な学習活動を行うように、学習の流れが大変分かりやすくなっている。教科書の横幅が28ミリメートル大きいことで、ゆったりとした紙面を使って児童が書き込むスペースが確保されていることが学習の向上につながると考える。

光文書院「新版 小学保健」では、「あてはめよう」「見つけよう」の活用の欄が設定されていて思考を深めるように配慮されている。また、大事な語句は太字のゴシック体で示されていて学習の意識化を図っている。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、東京書籍「新編 新しい国語」5票、他は0票となり、国語は、東京書籍「新編 新しい国語」を採択することとする。

開票の結果、教育出版「小学 書写」5票、他は0票となり、書写は、教育出版「小学 書写」を採択することとする。

開票の結果、東京書籍「新編 新しい社会」5票、他は0票となり、社会は、東京書籍「新編 新しい社会」を採択することとする。

開票の結果、帝国書院「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」 5票、東京書籍「新編 新しい地図帳」 0票となり、地図は、帝国書院「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」を採択することとする。

開票の結果、東京書籍「新編 新しい算数」 5票、他は0票となり、算数は、東京書籍「新編 新しい算数」を採択することとする。

開票の結果、啓林館「わくわく 理科」 4票、東京書籍「新編 新しい理科」 1票、他は0票となり、理科は、啓林館「わくわく 理科」を採択することとする。

開票の結果、東京書籍「新編 新しい生活」 5票、他は0票となり、生活は、東京書籍「新編 新しい生活」を採択することとする。

開票の結果、教育芸術社「小学生の音楽」 5票、教育出版「小学音楽 音楽のおくりもの」 0票となり、音楽は、教育芸術社「小学生の音楽」を採択することとする。

開票の結果、開隆堂「図画工作」 5票、日本文教出版「図画工作」 0票となり、図画工作は、開隆堂「図画工作」を採択することとする。

開票の結果、開隆堂「小学校 わたしたちの家庭科」 5票、東京書籍「新編 新しい家庭」 0票となり、家庭科は、開隆堂「小学校 わたしたちの家庭科」を採択することとする。

開票の結果、東京書籍「新編 新しい保健」 5票、他は0票となり、保健は、東京書籍「新編 新しい保健」を採択することとする。

10 その他

- (1) 議案第19号の関係者として、中学校用教科用図書選定委員会委員である野田中学校校長、霞ヶ関東中学校校長、川越西中学校校長、名細中学校校長、山田中学校校長の出席について各委員が承認し出席が認められた。
- (2) 議案第20号の関係者として、小学校用教科用図書選定委員会委員である中央小学校校長、高階西小学校校長、大東西小学校校長、霞ヶ関北小学校校長、山田小学校校長の出席について各委員が承認し出席が認められた。
- (3) 会議録署名委員として、長谷川委員、長井委員が指名された。
- (4) 会議について10名の傍聴があった。